

# 蠅螂の斧

## 番外編

# 2015 NYマンガ展まで

団 士郎

仕事場D・A・N/立命館大学大学院

一年前にNYのギャラリーを訪れて決めてきたマンガ展。いよいよ、準備が大詰めの日々。カラー版の作品づくりは、このところ毎年のことだからストレスも感じないが、慣れない海外展覧会の準備となると、些細な気がかりがあれこれ出てくる。これはそんな日々の大詰めの記録。

終わってみれば、案ずるより産むが易しなところも沢山あったが、そんなことは後だから言えること。渦中ではなんやかやが気がかりだった。とにかく、一年かけて準備したことをやり終えた安堵感は半端ない今である。

2015/1/7

「そうだ、日記を書いておこう」と思った。

二ヶ月後の今日は、NYマンガ展の会場にいるはずだ。どうしてこんなことになったのか。さかのぼるもよし、あればの話だがそこに向けての抱負を書くもよし。

対人援助学マガジンの連載に、2015年(現在)を挟んでみるのも良いかと思った。

NYマンガ展は3月5日～11日が団士郎・東日本大震災復興応援プロジェクトマンガ展。そして3月12日～17日は篠原ユキオヒトコマ展である。

この二人連続のマンガ展をNYで開催できることになった経過と、今からの二ヶ月を、書いてみたいと思ったのだ。

\*

さて、NY展は何処まで遡ればより正確な事実に近いものになるのだろう。現実化の始動は、2013年師走、篠原ユキオが「いよいよその気になったので、NYに下見に行ってくるわ」と知らせてきたことだ。

NYでの一コママンガ展開催は、大分以前から彼に勧め続けていた。彼のキャリアや受

賞歴を考えると、もう日本の雑誌や新聞で連載が始まったとか、終わったと言っている時期は過ぎたと思っていた。しかしなかなか腰の重かった彼が、やっと動くという。「だったらNY行きと一緒に付き合うよ」と返した。

私はNYにこれまで二度出かけたことがあった。一度目は次男の成人記念父子二人旅で20年近く前。その後は13年前、舞台芸術学園でミュージカルの勉強をしていた末娘の、成人記念親子旅(これは妻も一緒に三人旅になった)。そして今回、久しぶりのNYだった。

篠原ユキオは40年以上の付き合いになる漫画家だ。私が23、4歳の頃、大学生時にお互い一コマ漫画描きとして、新聞の投稿欄での遭遇が最初だ。その後、産経新聞ヤング面企画連載漫画「eye」の執筆陣として編集部との仲介で会うことになった。

その時のメンバー、安芸ヒロシ、篠原ユキオ、団士郎、そして私の高校、大学とマンガ研究会の仲間だった山口博史で結成したマンガ集団が「ぼむ」である。「ぼむ」は我々のグループの名であり、同時に定期発行で30数号

を数えた一コママンガ同人誌の名前でもある。

当時、篠原は京都教育大の学生で、卒業後は中学校の美術教師になった。安芸も山口も卒業してサラリーマンになった。私は一浪して同志社大学心理学専攻に入学していたが、結核を患って一年留年し、ひとつ年下の篠原が先に卒業、就職という時期だった。

一年後、私は心理職の公務員として京都府に就職した。

その後、篠原は教員を辞めて漫画家として独立。新聞を中心にあちこちで精力的に漫画仕事をし、数々のコンクールでも受賞した。

私は50歳になるまで心理職公務員の仕事と漫画家の二足草鞋で多忙さを楽しんでいった。

50歳で退職し、京都市内に仕事場D・A・Nを構えたのは、篠原のアトリエの真似である。そこで私が制作にいそしんだかどうかは分からないが、出勤するオフィスを構えたのは今考えると良かった。

独立して数年後、「月刊/少年育成」誌で長期連載に入っていた「木陰の物語」が、単行本「家族の練習問題」として、長男(遊)のホンブロッコ(アソブロッコk.k.内出版部門)から出た。

その前には、文春新書で「不登校の解法」も出して貰っていた。出来ればいいなと思っていたものが、幸運にも次々と形になっていった。他にもいくつか出版の機会に恵まれ、50歳前から今までで、20冊近い本を出してもらえている。半分为マンガで、半分は一応、家族心理臨床の専門領域のもの。このバランスは本意なモノである。

また、2001年からは誘われて立命館大学大学院応用人間科学研究科に籍を置くことになった。そして2011年秋、東日本大震災復興応援プロジェクトがスタートした。「家族応援マンガ展」は2014年には全国13カ所で開催された。

漫画家として活躍していた篠原ユキオは10年程前、誘われて、京都精華大学漫画学科の教授になった。天性の教育職者なのだろう、二足のわらじを多忙に充実して過ごしているようだった。



●篠原ユキオ 作●

しかし私にはずっと忘れていない希望がある。それは篠原ユキオが一コママンガのアルバムを出すことである。

我々日本で一コママンガを愛し、描く者にとって、憧れのひとつに欧米の漫画家のヒトコママンガのアルバムがある。

絵が良い、アイデアがしゃれている、上品だけど、辛辣なところもある。これぞcartoonという作品集だ！

インターナショナルなルートで、彼のそんな作品集が出ることを私は強く願っていた。更に、雑誌「ニューヨーカー」の表紙イラストレーターとしてのデビューも勝ち取ってほしいと勝手に強く思っていた。

彼は面倒見のいい男で、いろんな人の世話をする。しかし自分のことは自分でやりたい人間で、誰かの世話になるのは下手だ(嫌がっているのかもしれない)。だから私は友人と

して、口出ししてやろうとしてきたし、今もそう思っている。それが形になったのがNY行きのプランだった。

## ギャラリー

NYで会場を確保して、マンガ展などが出来るものかどうか、全く見当がつかなかった。彼が下見にと言ったのはそういうことだった。

チェルシーのギャラリー街をあたる段取りは、彼の元教え子でNY在住の女性のアポを取り付けたという。

ただ、仄聞するところでは、NYの画廊において、日本で考えるような個展を開くのは簡単ではなく、現実的には不可能に近いらしい。そこで私としては、次善、三善の策を摸索していた。

そんな時、「家族の練習問題」を出してくれている息子が、大阪のイラストレーター・上田しずかを連れて新しくオープンするNYのギャラリーでのグループ展に出かける話を聞いた。時期がほぼわれわれの渡米と重なっていた。是非、現地で何か相談に乗って貰おうと段取りをした。

更に、NY展計画を「家族療法WS」のスタッフ同僚の早樫一男に話していると、彼に繋がりのあるNYのギャラリーの話が出てきた。こうして、思いもかけないルートから、ワシントン広場近くの天理文化協会のギャラリーが浮上した。

いずれにしても、やはり行ってみなければ分からない話で、紹介を受けた福井館長さんにまずはアポを取らせて貰った。そして結果的には、それが今回の開催に繋がったのだった。

## 作品様式

私は現在、準備の大詰め真っ直中。作品は基本的に、雑誌連載用のモノクロ原稿を、photoshopで彩色して、拡大プリントするものである。

15年間連載してきた「木陰の物語」の中から、専門家に英訳して貰った9作品を持ってゆくことにした。(＊1)

見せ方に思案が必要だったが、なかなか妙案がなかった。

ギャラリーは天井までの高さ5メートルの真っ白い壁が、延べ32メートル用意されている。そこを一人で充実させなければならない。

2011秋からの東北被災地各県でのマンガ展で、だいぶ個展にも慣れてきた。長いこと漫画を描いているし、「ぼむ」マンガ展のようなグループ展は40年近くやってきた。しかし近年まで、個展は一度もしたことがなかった。そんなことをしたいと思う動機がなかったのだ。

個展のきっかけは、東日本大震災とむつ市図書館ギャラリーの二つ。絶妙のタイミングで、下北半島の奥で、2011年9月、第1回の個展が動き始めた。それが、今回のNY展に繋がってくるのである。

そしてある時、日本から物語を持っていくのだから、絵巻物や掛け軸はどうだろうとアイデアがひらめいたところで、すっきりした。

## 英会話

今日も先ほどまで英会話学校 Berlits いた。せっかくアメリカまで出かけて、ギャラリーに詰めるのである。そこで無言というのは愛嬌がなさ過ぎるだろうと思った。

日本語なら必要なことは何でも話せるが、もともと社交的などではない。まして見知らぬアメリカ人と英語でハーイなどとやれるわけがない。そこで、外国人に慣れておくことを考え、高い授業料を払って、展覧会までの6ヶ月、Berlitsに通うことにした。

ここで痛感したのは、記憶力の減退である。元々丸覚えは大の苦手。加えて加齢による記憶力の低下。惨憺たるものだと思うが、その状態でも好意的な外国人の前には平気になった。(＊2)

## 1/8

昨日の夜中、NY 展のキュレーターから篠原と私宛にメールがあった。

NY Gallery Guide に掲載するインフォメーションが必要になったので、至急、展覧会のタイトル、簡単な説明、作品の表現方法を知らせてくれと言う。加えて、展覧会のプレスリリース用にアーティストステイトメント、作品のコンセプト、経歴書、作品の写真が必要だという。

時差の関係でこの着信は午前3時過ぎだったが、読んでいたら篠原から午前3時15分にメールがあった。こちらは時差の影響があるわけではなく、この時刻に起きているのである。私が直ぐ返信すると彼から、「4日間連続で徹夜をしている」と無茶な返信が届く。大学への通勤の運転中に、寝ていないかと心配になるが、昔から我々は、こんな時間に起きている二人なのだ。

そう言えば以前、誰も見ているはずのないNHK の「のど自慢予選会」というBS深夜ダラダラ長時間放映を、流しながら仕事をしていて、その話で二人だけで盛り上がったことがあった。

## 1/9

制作、プリントをお願いする業者「す屋吉」(京都)に、試作品を作ってもらうためデータを送ろうと宅ファイル便を起動したら、トラブルで送れない。

メインPCがまだウィンドウズ xp だからなのだが、前には送れていたのに、全く困ったことだ。動きが悪くなったので、不要だと思われるモノをアンインストールしたら、必要なものまで消えてしまったらしい。我ながら、くだらなくてあきれれる。

## 1/10

日常業務やスケジュールは詰まっているが、時間を見つけては、マンガ展データに手

を入れている。しかしまだ、全ての整理はできていない。数が多いので、細部の手作業をしていると、全体が見えないまま時間が過ぎる。もう、一ヶ月くらいで完了してしまわなければならないのだから、何処かで見切らないといけない。

そのためには全体を整理して、新しい進行管理表を作らなければならない。前のやつは書き込みが多すぎて、何か分からなくなってきた。

NY作品進行表

	英文	原稿	制作	印刷	完成
1	① 藤原の心	○	○	○	○
2	② 道に迷った人	○	○	○	○
3	③ 道に迷った人	○	○	○	○
4	④ 道に迷った人	○	○	○	○
5	⑤ 道に迷った人	○	○	○	○
6	⑥ 道に迷った人	○	○	○	○
7	⑦ 道に迷った人	○	○	○	○
8	⑧ 道に迷った人	○	○	○	○
9	⑨ 道に迷った人	○	○	○	○
10	⑩ 道に迷った人	○	○	○	○
11	⑪ 道に迷った人	○	○	○	○
12	⑫ 道に迷った人	○	○	○	○

## 1/16

楽しみにしていた掛け軸の試作品を持って「す屋吉」の磯貝さん来訪。

今回の仕事も、毎年東北展で世話になっているここをお願いすることになっている。渡された掛け軸は想像以上に大きかった。無論寸法は合っているので良いのだが。

黒い棒で、掛け軸風に仕上がった作品は展示壁面ですっきりぶら下がってくれるだろう。大きい方が、ギャラリー壁面が貧相にならない。

このままで完成品として了解なので、この仕様で、他の作品も仕上げて貰うようお願いする。

それから、白い壁面对策として考えていた、カラーボードに一色プリントのB2日本語

版作品のお願いと、「故郷」の巻物版制作も依頼する。

輸送問題でコストの話や、発送の段取りなどの話もする。出来るだけ早い時期にこちらの作業はフィニッシュして加工に入ってもらえるよう話す。輸送日数の事は郵便局に確認しておかなければならない。

## 1/17

同僚の村本さんから、中村さんとNY展訪問の計画を聞く。それぞれの研究課題に引っかけてNY出張を組んで、そのついでにギャラリーをのぞいてくれるという。

被災地復興支援・家族応援プロジェクトは毎年、三人のむつ市からスタートだから嬉しいことだ。私個人の「木陰の物語」展という位置づけでは、弱いところがあるなあと思っていた。

これでマンガ展以外の展開も、無理のない範囲で拓かれるかもしれない。何もかも自分でまかなうのは大変だが、展覧会趣旨に添ったサイドメニューや告知活動、調査があるのは有り難い。



## 1/18

作品輸送の件で、郵便局のHPでEMS(国際スピード郵便)のことを調べる。すると凄いことが判明。京都からニューヨークと入力すると、到着にかかる日数は二日。「どうなってるんじゃ!」と思う。

サイズは1.5メートル×2メートルくらいで、

料金は重量による。最大30キログラムまで可能で、最も重くて35000円くらい。

輸送の件では篠原ユキオが運送会社から取った美術品輸送見積もり(百数十万円)とは大きな差。これだけ違うと、EMSで発送できるサイズになっているのが、有り難い。

## 1/22

本日でほぼNYマンガ展の作品準備は完了。まだ細かいことはあるだろうが、とにかく告知看板や、解説パネルなどのデータを準備して、出来るだけ早く業者に発送せねばならない。

### す屋吉 kk 磯貝様

予定より早く仕上げました。  
お願いを箇条書きします。

(1) 掛け軸は作品8作、既制作の「幸福な人生」を含んでいますので、掛け軸制作の残りは7作品(14本)です。

(2) そしてショーウインドウ用の掛け軸1点。

これは作品の掛け軸と同じ仕様で上下中央部に、告知内容が来るのが良いかと思えます。

(3) 作品「故郷」を巻物式に。巻物の天地は厳密な寸法は拘りません。横長になって壁面展示されることを想定したものに。

(4) 展覧会趣旨の英文と日本語の告知ボード(B2)、一枚に入れてしまうのが良いか、二枚並べるのが良いか、悩むところです。読みやすさは文字サイズにもよりますね。ご意見あれば。

(5) 東北巡回展のイラストボード英語版

ボードサイズがバラバラなのは見苦しいかと思うので、B2横で入る縮小で。

(6) B2ボード(フレーム無し・パネル)展示8作品(故郷をのぞく)の日本語版 黒一

色をいくつかのカラーボードに印刷。

ボードの色は出来るだけ、洋色ではなく、和色の、イラストが見えにくならない程度の濃色で。

掛け軸作品の横に、同じ日本語ボードが並ぶので、色彩対比がある程度配慮されているのが望ましいです。

いろいろ書きましたが、まだ、不明なところがあるかと思います。実際に作業を進行していただく中での確認も必要かも知れません。

ひとつの物語の順は、画面上に数字を入れるのは見苦しいので、データ番号が付いています。順番が入れ違ったりしないよう、ご配慮下さい。

## 1/26

ドンドン日が過ぎるが、まだ最終データが送れていない。さっさと発送して、す屋吉さんに作業して貰わないと思うのだが。

明日にでもとりあえず、発送をと思案。ここまで大きなデータをネット送信するのは不安なので、USBを宅配でと思う。

## 1/28

レターパックでUSBを発送。担当の磯貝さんにメールも送信。これで私の方の一区切りがついた。

## 1/30

送ったデータに関して、いくつか確認のメールと制作費の見積もりが出てくる。NY への発送も含めてやってくれるが、総額70万円程の金額。掛け軸17本、巻物1本、告知パネル、作品パネル32点など、数も多いし当然だが。

## 2/4

いよいよ、オープニングまで一ヶ月になっ

た。村本さんから現地の3.11追悼集会で、30分ほど話す時間を貰うことになったと連絡。そこでマンガ展の告知も可能とか。ドンドン情報をよこせと言ってくるが、なかなか他の段取りがはかどらない。でも、現地のアクセスポイントが増えるのは良いことだ。

## 2/6

巻物の校正データが入る。長さ、7メートル近い作品。これを壁に貼る。ギャラリーならではの楽しみ。



一方、カラーボードの仕様について意思疎通不十分点が発覚。制作日程をギリギリにしておかなくて良かった。やりとりで、出来るだけこちらの思いのものにして貰うため、磯貝さんと会って、パネルに和紙を貼る案が出て来てる。それは素敵だが、色はどうなるのかなあ。

## 2/8

現地での催しに、チラシを置いて貰ったり、こちらも参加したりという話に村本さんが活発に動いてくれる。中村さんとのNY来訪話が確定。その結果、せっかくならと上積みされたことが増えた。

ギャラリー・マンガ展の案内カードが届いているが、微妙な誤植に何となく配布が消極化。まあ、日本で配っても、来る人はないんだろうけど。データを配信できるところには配ろう。何人かの方から、「告知してあげるからデ

一タ発送して」と言ってくる。有り難いこと。

Great east Japan Earthquake  
Family Support Project  
**Manga exhibition**  
**DAN SHIRO**  
Rikumeikan University  
Graduate School of Science for Human Services

in the shadow of the family tree  
**木陰の物語**

TENRI CULTURAL INSTITUTE OF NEW YORK  
2015 March 5~11 12:00 ~ 18:00  
43A WEST 13TH STREET, NEW YORK, NEW YORK 10011

## 2/15

掛け軸16本の校正 巻物、告知看板の校正など、必要なことが済んだ。後は完成して発送して貰うだけ。

私も一作品、B2版4枚(一作品)を別口に発送しなければならない。現地で「ほくほく会」という東北出身者の小規模な追悼イベントが行われる。これは継続的に開かれているらしい。そこで展示してもらおう事に決定。

### 東日本・家族応援プロジェクト

#### 団士郎「木陰の物語」漫画展

2015年3月5日(木)~11日(水)  
12:00~18:00pm 最終日は16:00まで 日曜閉館  
天理文化協会(TCI)43A West 13th, NY

立命館大学大学院応用人間科学研究科では、2011年から10年計画で、毎年、東北4県(青森・岩手・宮城・福島)を巡り、東日本・家族応援プロジェクトを開催しています。団士郎・家族漫画展+各種セミナーを通じて、被災地の方々にエールを送りながら、復興の証人(witness)として存在し続けたいと願っています。  
このたび、NYにて、団士郎の漫画展を開催するとともに、小さな報告会を企画しました。皆様お聴きあわせのうえ、是非いらしてください。

**報告会** プロジェクトから見える被災地の今  
**日時** 2015年3月10日(火) 18:00~20:00pm  
**場所** 天理文化協会  
**報告者** 村本邦子・中村正・団士郎(立命館大学)

**団士郎 プロフィール**

1947年 東京都生まれ、東京都大田区育ち  
1972年 同志社大学文学部文化科学研究科心理学専攻卒業  
1988年 住友ビル・A-N設立  
2001年 立命館大学大学院応用人間科学研究科教授  
社団法人、日本漫画家協会会員  
1989年 第三回ユニーモア賞大賞(漫画家賞)  
1990年 第四回ユニーモア賞大賞(マンガ賞)  
1999年 第二十回読者投票大賞(漫画家賞)

**被災者にマンガ家のできること**  
マンガ家は、がれきの外付けには役に立たない。マンガ家は仮設住宅の建設にも役に立たない。マンガ家は大きな組織も動かさない。  
だからマンガ家は、小さな事をそとやる。多くのモノを失った被災者のところに、誰かの小さな物を持って訪れる。  
それは誰の記憶の中にも残っているもの。  
何もかも奪われたような悲しみの中、そんな記憶があったら、少しは心が軽くなる。少しは心が軽くなる。  
団士郎

共催 立命館大学大学院応用人間科学研究科、立命館大学人間科学研究所、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「インターネット社会に向けた支援のくま」(漫画家研究) (修復的支援チーム)

## 2/25

一週間を切った。出発までしておくべき事。展覧会とは別口の、追悼セレモニー用のパネル4枚をEMS国際スピード郵便で明日に発送。同時に、ギャラリー向けに冊子200冊も発送。輸送は重量問題だから一冊100円ほどのコストになる。

24年度確定申告の準備を済ませて税理士に発送。週末は松江で土曜、日曜、それぞれのプログラム。

展覧会関係は済んでいるので、NY旅の前後の対応が主だ。ギャラリーに誰が来てくれるのか気になり始める。展示は簡単に済むような気がしているので心配していない。(＊3)

大学でやっている東日本大震災復興支援プロジェクトの一環としての位置づけが明確になり、出張旅費などが支給されるようになったと知らせを受ける。

自分で勝手に計画して、準備して実行しようとしていることを応援してもらえるのは、とても有り難い。恵まれているなあと思う。追悼集会での告知チラシもなかなか良いできた。

## 2/28-3/1

直前、最後の出張。去年はロンドンから戻ったその足で、空港から松江に直行だった。

今回は逆。松江の社会福祉協議会で講演2時間15分。翌日は松江WSで6時間。

## 3/2

明日の朝が超早いので、伊丹空港ホテルに泊まることにして準備中にJALからのメールあり。

Web 事前座席指定の手続きが、入国手続きの不備で完了していないという。意味が分からないし、メールで問い合わせは出来ず、当日カウンターでその旨伝えるようにとある。

まったくわからない。更に、理由なくこういう事がありますなどと断り書きもわからない。

ESTAというアメリカ入国のエントリーを必ずしなければならないが、準備段階で二年間

有効だと知らずに行った。

しかもその手続きが知らない間に業者が入っていたらしく、手数料が高い。おかしいなあ、値上がりしたのかと思った記憶がある。その業者から、手続きをしたら既に登録されていたので、返金するという知らせがあったのだ。

そんなことがあったので、その不備でも絡んでいるのかと心配した。出来るだけ不確定要素は排除して行動しているのに、こういう分からないことで不安に思われるのはストレスだ。まさか成田で出発できないなんて事はないだろうなあ。

伊丹泊にしたので、今夜の内にJAL国際線のカウンターで確認するつもり。そういう意味では空港ホテル前泊が、別の役に立った。

そんな中、次のメールは中央法規出版の柳川さんから。「家族理解入門」が三刷になるそう。有り難く嬉しいこと。新しい本のプランも動かしてみようかと思いはじめ。

### 3/3

早朝に目覚めて一階のJAL空港カウンターへ。問題なく発券された。今から成田に向けてNY便に乗り継ぎである。

千葉君と伊丹で、上田さんと成田で、そして搭乗少し前、遊とこと葉が登場。

事前予約で取れていた席は通路側で良かったのだが、やはり何か不都合があったのか、搭乗ゲートをくぐってから、別に呼ばれて確認を受ける。何があつてのことなのか分からないが、クリアできて良かった。

NYまで昼間を跳び続けて、同じ日の朝に着くという離れ業？。3月3日11時40分成田発で3月3日10時頃にNY、JFK空港着。

明日はいよいよ発送済みの作品群と初対面。サンプルは見たが全作完成品をNYで初めて見る。楽しみだ。機中では5本の映画を見て、一睡もしなかった。



ワシントン広場（\*4）

### 3/4 展示

12時過ぎ、ワシントン広場経由でギャラリーへ。去年同様、NYらしい佇まいの街並。

滝沢さんが出てきて迎えてくださる。福井館長、一年ぶりの再会。



早速送られてきている作品の梱包を解く。思ったような出来映えで一安心。少しは瑕疵もあるが、それには目をつむる。

遊君、千葉君、上田しずかさんの三人で展

示を試行錯誤しながら開始してくれる。思ったよりも時間がかかったが、満足な仕上がりになった。さあ、いよいよ展覧会の始まり。

準備中に、ギャラリー関係の人が、会場での催しに来訪。その人達が準備中に見て、声をかけてくる。巻物マンガを「ちょっと見始めて、終わりまで読み切っていました」という。伝わっている。そして早くも、NY在住の日本人の人は表現、感想が活発な気がする。

さあ、いよいよ明日、オープンだ。



**\* 1** 英訳は基本的に私の日本語に対してどうなのか分からない。

今回の訳を、長年現地で暮らす日本人来場者に複数うかがう機会があった。皆がよく訳してあるといった。ニュアンスがよく出ているという。そうなのか・・・と思ったが、分からん。

**\* 2** 結果的にだが、会場には常に日本語が溢れ、訪れる外国人達も、片言の日本語を話す人が多かった。

全くの英語でのやりとりをしたのは、2, 3人だった。展示の漫画も、英語版のモノより、日本語版を読んでいる人の方が圧倒的に多かった。日本語版小冊子も配布したが、英語版の制作を求めた人は数人だった。



**\* 3** そう思っていたが、実際はなかなか長時間かかってしまった。千葉君と遊、そして上田しずかさん

が頑張ってくれた。私はいつものように見ているだけだったが、まあそういうものだ。

**\* 4**

この時期、NYは寒いとは思っていた。でも、マイナス10度なんて気温は、日本の冬でも余り経験しない。乱暴な寒波だ。そして数日後には、日中の気温15度位になったりした。激しいというか・・・。